

県内初！

形がわかる銅鉢を発見！

氷川前遺跡

出土の“銅鉢”展示

～ 古代のムラから姿をあらわした祈りの器～



平安時代の仏教に関する金属器「銅鉢（どうわん）」が、古代のムラから県内では初めて、完全な形で富士見市で出土！約1,100年前の貴重な一品を、ここに公開します。

令和7年

11月23日(日) ~ 12月5日(金)

9:00 ~ 19:00 (最終日は15:00まで)

会場 富士見市立中央図書館 1階展示ホール
休館 11月25日(火)・12月1日(月)

入場
無料

市指定文化財「氷川前遺跡出土銅鏡」

令和4年3月、市内水子地区所在の氷川前遺跡の発掘調査において、今から約1,100～1,150年前の平安時代住居跡から、銅鏡（青銅製）がほぼ完全な形で見つかりました。その後、銅鏡は保存処理・復元、材料の成分分析を行って資料の保全を図り、令和6年2月には「氷川前遺跡出土銅鏡」として市指定文化財に指定されました。

県内では古墳の副葬品や古代の集落跡から銅鏡が見つっていますが、破片を含めても約20数点しか確認されておりません。副葬品の銅鏡は完全な形で見つかることがありますが、奈良時代、平安時代の集落遺跡からは、銅鏡の破片がごく稀に出土する事例があるだけで、ほぼ完全な形で発見されたのは県内では初めてとなります。



古代の銅鏡は、仏教に関わる遺物（供養具）と考えられています。氷川前遺跡の銅鏡も同様と考えられますが、市内には古代の寺院跡はなく、また伝承もありません。しかし市内には青銅製の仏具を製造した工房跡や、鑄造に用いられた鋳型、仏教関連の遺物が出土するなど、当時のムラにも浸透してきた仏教関連の資料が見つっています。

今回の展示では、保存処理・復元が終了した銅鏡を紹介し、あわせて平安時代の市内の遺跡や関連資料などを紹介します。

【主な展示資料】

◎氷川前遺跡住居跡出土資料

（銅鏡・須恵器・墨書土器）

◎市内の同時期の資料

（宮脇遺跡・松山遺跡等）

◎保存処理を行った資料

（黒貝戸遺跡等）

「氷川前遺跡出土銅鏡」

（左）出土時点の状況

（中）X線透過写真

（右）保存処理実施後

